

レッドリストとは

- 県内の絶滅のおそれのある野生生物の種をリストアップしたもの
- 2012年3月以来 **13年ぶり** の改訂

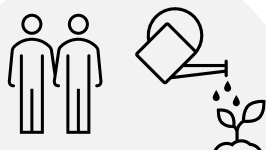
レッドリスト掲載種を詳しく解説した「埼玉県レッドデータブック2024植物編」は

2025年3月に発行予定

ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現へ



希少な生物の情報を集めた
基礎資料
として提示



それぞれの種の
保護対策
に活用



ネイチャーポジティブ
の実現

改訂のポイント

1 掲載種 82種 増加

(2011) 1,031種(21.4%)



(2024) 1,113種(23.1%)

カテゴリー	種数
絶滅	52
野生絶滅	2
絶滅危惧Ⅰ類	93
絶滅危惧ⅠA類	167
絶滅危惧ⅠB類	213
絶滅危惧Ⅱ類	305
準絶滅危惧	205
情報不足	76
合計	1,113

2 主なカテゴリー変更

	(2011)	(2024)
レンゲツツジ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類
アヤメ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
県の花 サクラソウ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類

ネイチャーポジティブの
シンボルの事例

3

ムジナモが野生復帰！

(2011)	(2024)
野生絶滅	絶滅危惧ⅠA類

ムジナモ野生復帰①

ムジナモとは、

水中の小動物(ミジンコ等)を
直接捕まえて栄養に。

根がなく、沼や水田などの水面に浮遊する食虫植物

- ✓ 日本では1890年に牧野富太郎氏により江戸川河畔で初めて発見される。
- ✓ 県内では1921年に羽生市三田ヶ谷の宝蔵寺沼付近で初めて発見される。
- ✓ 1966年5月、「宝蔵寺沼」が国内最後のムジナモ自生地として国指定の天然記念物となる。
- ✓ 1966年8月、台風14号による大雨で宝蔵寺沼のムジナモが殆ど流出する。
⇒わずかに残存していた個体も翌年までに消滅

[写真提供:羽生市教育委員会]



羽生市・羽生市ムジナモ保存会・埼玉大学などの取組により野生復帰へ

ムジナモ野生復帰②

野生復帰までの道のり

【1960年代】 保存会会員は自宅で栽培／羽生市は旧 自生区域を公有地化（以降、自生区域の管理を継続）

【1970年代】 県教育委員会による緊急調査／羽生市教育委員会・埼玉大学による緊急調査／埼玉大学研究室での栽培・研究

【1985年】 宝蔵寺沼の試験池に初めてムジナモ100株放流 ⇒ 年間を通じた生育は確認されず

県レッドリスト1998
「野生絶滅」

県レッドリスト2005
「野生絶滅」

【2009年】 羽生市教育委員会・埼玉大学による緊急調査
宝蔵寺沼にムジナモ放流・環境整備を本格化

放流や生育環境の整備など試行錯誤
ムジナモだけを増やそうとしても上手くいかない…
多様な生物がバランスよく生息できる環境づくりが重要

【2011年】 自然増殖した100株を確認

県レッドリスト2011
「野生絶滅」

【2016年】 15万株 に自然増殖

【2021年】 100万株 に自然増殖

【2025年1月】 野生復帰

県レッドリスト2024
「絶滅危惧 I A類」

保全活動による
野生復帰事例は
県内初
(国内でもまれ)



[写真提供:羽生市ムジナモ保存会]

「多様な主体の連携」+「多様な生物のための環境づくり」+「希少種の保全」⇒ ネイチャーポジティブのシンボリック事例

ムジナモ野生復帰③

＼羽生市・埼玉大学・埼玉県でムジナモの野生復帰についてPRしていきます／



ムジナもん

【羽生市】

ムジナモ野生復帰記者会見

- 日時:令和7年1月10日(金) 13時30分～
- 場所:キャッセ羽生(羽生市三田ヶ谷1725)
- 登壇者:河田晃明 羽生市長

秋本文子 羽生市教育長

金子康子 埼玉大学名誉教授

野中孝一 羽生市ムジナモ保存会会長

*会見後、ムジナモ自生地見学が行われます。

【問合せ先】羽生市立郷土資料館(電話 048-562-4341)

報道機関対象

講演会「ムジナモ復活の軌跡 ～希少植物再生への道～」

- 日時:令和7年1月18日(土) 13時30分～15時30分
- 場所:ワークヒルズ羽生(羽生市下羽生1014-1)
- 講演者:金子康子 埼玉大学名誉教授

埼玉県環境科学国際センター研究員

定員100名
(無料)

申込みは羽生市立郷土資料館へ

[メール] kouza@city.hanyu.lg.jp (特設アドレス)

※事前申込み、先着順



メリンちゃん

【埼玉大学】

令和7年春 記念講演会 (※検討中)



コバトン&さいたまっち

【埼玉県】

令和7年 随時 SNS などによる情報発信

Made in SAITAMA 優良加工食品大賞2025

目的

県産農産物を活用した加工食品を製造、販売する優秀な県内の食品加工事業者等を表彰し、その成果を称え広く発信することで、**県産農産物の需要拡大と県内食品産業の発展を図る**

応募総数

35点

審査

一次審査 令和6年10月11日
～10月25日
最終審査 令和6年11月29日

表彰

大賞、優秀賞、特別賞 各1点

表彰式

令和7年1月17日（金）10:00～
知事公館



大賞



受賞者

てしま
手島農園
(桶川市)

商品名

男気トマトジュース

農産物

トマト

特徴

- ▶ オリジナルブランド「男気トマト」を100%使用
- ▶ トマトの味を忠実に表現した濃厚な味わい
- ▶ パッケージはお洒落なデザイン



優秀賞



受賞者

高砂製菓 株式会社
(久喜市)



商品名

こまき
小薪あげ

農産物

米 (彩のかがやき)

特徴

- ▶ まっすぐな棒状に仕上げる独自の加工技術
- ▶ 彩のかがやき本来のうまみを生かす工夫
- ▶ 資源循環の取組として「養老馬たい肥」※ を使って育てた米を原料に使用

※ 競走馬等を引退した馬の糞を活用したたい肥

特別賞



受賞者

株式会社 石川漬物
(小鹿野町)

商品名

しゃくしな漬

農産物

しゃくしな

特徴

- ▶ 秩父地方の特産品「しゃくしな」を使用した伝統的な漬物
- ▶ 塩分控えめで、素材の風味を生かした食味
- ▶ お土産だけでなく日常使いもしやすい価格